

**感染拡大、本校は落ち着いてます**

先週はマイコプラズマ感染が拡大傾向とお知らせしました。その後は2~5名/日程度と、感染拡大は見られません。

市内では徐々にインフルエンザの罹患数が増加、昨日以降、小学校2~3校で学級閉鎖となっています。本校でもインフルエンザの感染が出始めています。

**改めて気温に合った服装で、早寝早起き朝ごはんを**

家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

## 薬物乱用はダメ。ゼッタイ。

今日の3校時目、5年生3クラスを対象に、薬物乱用防止教室を実施しました。毎年5年生を対象に、信陵ライオンズクラブの社会奉仕活動の一環として開催していただいています。

今日は、ライオンズクラブ会長の古川さんと講師の福地さんにおいでいただき、薬物乱用の怖さや薬物が人の身体や生活にどんな影響があるのか、また乱用すると家族やその人がどんな人生になるのか等について、DVDや講師の先生のお話から学びました。



ダメージが考えられます。

**「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」**

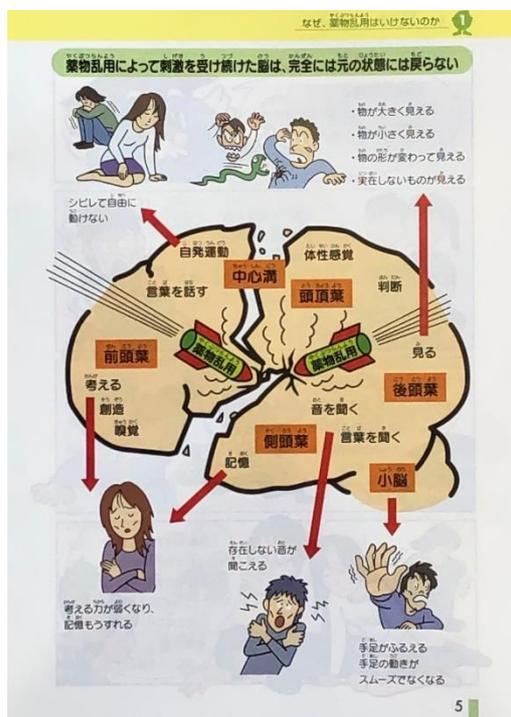
一生涯をかけて守り抜いてほしいですね。

＜乱用防止教室のテキストから＞

保護者の方へ

### 薬物に手を出させないための7か条

- 1 子どもの思春期特有の心と体の変化について理解しましょう。
- 2 毎日、家族の会話を大切にしましょう。
- 3 子どもの話には常に耳を傾けましょう。
- 4 友情を培い、仲間からの悪い誘いを拒否できる勇気を育てましょう。
- 5 子どもが家族や学校の先生にいつでも相談できるようにしておきましょう。
- 6 子ども自身が、健全な決断ができるように育てましょう。
- 7 家族そろってのコミュニケーションの場を大切にしましょう。



近年、薬物で検挙される人が大学生や高校生、時には中学生にも広がりを見せています。

脳も身体も正にこれから成長する、あるいは成長の真っ只中にある世代への影響は、想像を絶する健康被害・人生への

### マイコプラズマ肺炎について (民報新聞より)

夏頃からマイコプラズマ肺炎が流行している。この疾患は通称「オリンピック肺炎」と呼ばれる。それは4年に一度ほどの周期で大流行する性質を持っているからだ。ここ数年は新型コロナウイルス感染症による影響で、世界的な流行は見られなかったが、フランスやアメリカなどだ。

夏頃からマイコプラズマ肺炎が流行している。この疾患は通称「オリンピック肺炎」と呼ばれる。それは4年に一度ほどの周期で大流行する性質を持っているからだ。ここ数年は新型コロナウイルス感染症による影響で、世界的な流行は見られなかったが、フランスやアメリカなどだ。

リウ、中国などでは昨年秋から感染者が急増していた。日本では感染者の80%が14歳以下とされ、通常は軽症のまま完治することが多い。しかし、免疫力の低下が著しいがん患者や高齢者が罹患（りか）した場合は、重症化する恐れがある。厄介なのは潜伏期間が2~3週間と長く、飛沫（ひ）まじり感染すること。頭痛や倦怠（けん）感、発熱などの症状が出る頃には、すでに誰かにうつしている可能性がある。対策は、手洗いやうがい、マスクの着用などだ。

マイコプラズマ肺炎